

南ア・ズマ大統領がついに「陥落」

～政治混乱は収束も、ラマポーザ次期政権が直面する課題は極めて大きい～

発表日：2018年2月15日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

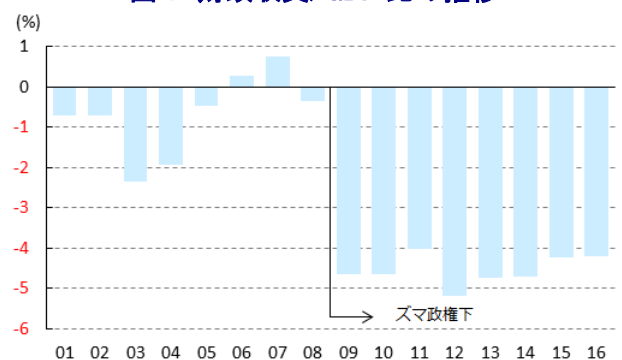
担当 主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

(要旨)

- 14日、南アフリカのズマ大統領がテレビ演説で大統領職からの辞任を表明した。ズマ氏を巡っては様々な汚職疑惑も影響して支持率や与党ANC内の求心力の低下が進んできた。今月13日にANCが正式に辞職を求める声明を出していた。その後もズマ氏は態度を保留する姿勢をみせたが、最終的に折れた格好だ。今後はラマポーザ氏(現副大統領)が大統領に就任するが、ズマ政権下で悪化した同国経済の建て直しは至難の業である。金融市場はズマ氏の辞任を好感する動きをみせ、ランド相場は上昇基調を強めているものの、ラマポーザ次期政権が直面する状況を勘案すれば早晚頭打ちする可能性もくすぶっている。

- 14日、南アフリカのズマ大統領が急遽テレビ演説を行い、大統領職からの辞任を表明した。ズマ大統領を巡っては、大統領就任以前から様々なスキャンダルが取り沙汰されてきたものの、ネルソン・マンデラ元大統領の側近として反アパルトヘイト(人種隔離)闘争を率いた経験のほか、その人懐っこいとされる人柄も影響する形で2009年に大統領に就任した。しかし、大統領就任後は知人であるインド系富豪との癒着のほか、様々な汚職疑惑が噴出したこともあり、国民からの政権支持率は低下を余儀なくされた。また、世界金融危機後の長期に亘る国際商品市況の低迷の影響で景気の減速感が強まるなか、財政手法の異なる財務相を相次いで更迭したことで、国際金融市場からの信認も大きく損なわれる状況が続いた。さらに、昨年末に行われた与党アフリカ民族会議(ANC)の議長選において、ズマ氏への対決姿勢を鮮明にしたラマポーザ副大統領が当選したことにより、ズマ氏の与党ANC内における求心力の低下は一段と進んだ。同国では来年に総選挙が控えるなか、ズマ政権の下で国民からの与党ANCに対する支持率も低下するなど厳しい選挙戦となることは懸念されており、昨年行われた統一地方選挙ではANCの得票率が大幅に低下したほか、大都市部では野党が過半数を上回るなど惨敗を喫した。こうしたことから、最高意思決定機関である全国執行委員会(NEC)は昨年末以降ズマ氏の処遇に対する協議を続けてきた模様である。その結果、今月13日にANCは公式にズマ大統領に対して大統領職の辞任を求めるに至った(詳細は13日付レポート「[南ア与党、ズマ大統領に「最後通牒」](#)」をご参照下さい)。その後もズマ氏自身は辞任を拒否する姿勢を示したほか、その動きを受けてANCは野党が提出したズマ大統領に対する不信任決議案を指示する方針を決定するなど、ズマ大統領辞任に向けた「外堀」を埋める動きが強まっていた。こうしたなかでズマ大統領はテレビ演説を行い、その大半を自身に対する弁解や自己弁護が占めるなど「恨み節」にも強い内容であったものの、演説の最終盤に当たって辞任要請を受け入れる考えを示し、その理由として「一連の決定を受けてANCが分裂するようなことはあってはならない」として混乱に陥っている党内の沈静化を挙げた。ズマ大統領は即日の辞任を表明したことで、今後はラマポーザ副大統領が暫定職を経て正式な大統領に就任

図1 財政収支/GDP比の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

する手続が採られるとみられ、過去数年に亘って混乱状態が続いてきた南アフリカの政治情勢は大きく改善に向かうことが期待される。ただし、ラマポーザ次期政権が直面する南アフリカ経済の建て直しの道のりは決して平坦なものではないことは言うまでもない。昨年来の国際商品市況の底入れにも拘らず、ズマ政権下での汚職体質も影響する形での「放漫財政」を受けて、ズマ政権発足後の財政状態はここ数年に亘り悪化の度合いを強めており、この立て直しは急務になっている。さらに、同国の汚職体質は対内直接投資の妨げになっているほか、公共

投資の進捗を妨害するなど潜在成長率の低下も顕著になっており、特に、ズマ政権が発足して以降の成長率は低下トレンドを歩んでいることは明らかである。よって、ラマポーザ次期政権には汚職体質からの脱却を通じて同国経済を「あるべき姿」に戻すための方策が求められるとともに、その道筋を通じて悪化が続いた財政状況の建て直しを図るといった難題が待ち構えている。汚職対策の面では、すでに上述のインド系富豪に対する捜査が始まっている一方、その過程でズマ氏自身に対する捜査などの動きが広がる事態も予想される。ANC内には依然として昨年末の議長選に立候補したズマ氏の元妻のドラミニ＝ズマ氏をはじめ、ズマ氏に比較的近い人物も多く存在しており、来年の総選挙を見据えれば党の分裂にも繋がりがねない急進的な動きが控えられる可能性も残る。他方、国民からのズマ氏に対する不信感が高まっている状況を勘案すれば、ラマポーザ氏をはじめとするANCがズマ氏に対して「手心」を加えたと見做されることは、次期総選挙での自滅を招くリスクもあるなど舵取りは難しい。当面の金融市場ではズマ氏の辞任が早まったことを好感する動きからランド相場を押し上げることが期待されるものの、現状では「期待先行」の可能性が高いことを勘案すれば早晚上値の重い展開となる可能性はくすぶっている。

以上

図2 実質GDP成長率(前期比年率)の推移



図3 ランド相場(対ドル、円)の推移

